



## 男性だって辛いんだ…

「女性活躍」「女性を管理職に！」「男性も育児や家事に参画を！」と、何かと女性、女性と、男性は楽をしているかのように言われがちな昨今。世の男性からは「男だって大変なんだ」という声が聞こえてくることも。確かに、男性だって辛い事実もありそうです。 今月は、あまり知られていない男性の辛さに焦点を当ててみます。

### ① 長時間労働

男女共同参画白書によると、週60時間以上働く雇用者は、女性1.9%、男性が7.7%となっています(令和2年度)。男性と女性の差は4倍！  
そして、30~40代の男性に限っては、約1割が長時間労働をしています。

### ② 「男はこうであるべき」という価値観

世論調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という質問に対して、「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた人が30~40%います(令和元年)。年代や性別で割合は変化しますが、性別によって役割を決める意識が根深いことがわかります。

### ③ 自殺者の多さ

コロナ禍で女性の自殺者が急増したことは以前取り上げましたが、コロナ以前から男性の自殺者数は女性の2倍以上となっています(令和2年:男 14,055 人、女 7,026 人)。原因は「健康問題」「ホルモンの影響」「稼ぎ手としてのプレッシャー」など、諸説言われています。

「弱音を吐いてはいけない」「リーダーシップをとらなくてはいけない」等、男性らしさを求められ続けることに慣れ、自分自身を追い込んでしまっていないでしょうか。

「男性らしさを求めること」=「女性らしさを求めること」につながります。大切なのは、「自分らしくどう生きたいか」。

自分の心の声を素直にきくことは、結構実は難しいことかもしれませんね。

### 11/19は国際男性デーです

1999年にカリブ海の島国トリニダード・トバゴでイベントが始まり、世界の多くの国々で祝われています。

## 女性センターの風景よい…



女性センターの窓際にあるアロエたち。

このアロエ、ある程度お世話をしていると、次から次へと元気に大きく成長していきます。

職員が年に2回程度株分けし、仲間を増やしています。お越しの際はアロエの様子もご覧くださいね。



## 今月知っておきたい言葉

### フェムテック

Female（女性）と Technology（科学技術）を組合せた造語で、女性の健康をテクノロジーの力でサポートすることを指す。

例えば、月経周期を記録するアプリや更年期症状の出やすさなどを数値化するサービスなどが挙げられる。

フェムテックの市場規模は年々拡大しており、今後、活用が広がりそうだ。

※出典：日本女性学習財団「We learn」他



## 新着図書のご紹介



パレア松本には図書コーナーがあり、どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。今月は「不満」をテーマに2冊ご紹介します。



### 『ムカついても、やっぱり夫婦で生きていく』

（一田憲子著、エムディエヌコーポレーション、2020年）

「夫婦と一緒に生きるとは、自分が選んだ道の外にもう1本道があると気付くこと」「夫との関係をよくしたいなら、まずは自分が相手に望んでいることを正直に認めることが第一歩」。数々の深い言葉から皆さんは何を感じますか？

### 『ふまんばかりのメシュカおばさん』

（キャロル・チャップマン著、好学社、2021年）

メシュカおばさんは街の人々に毎日不満をこぼします。そんなある日、メシュカおばさんにハプニングが……。クスッと笑いそうになりながらも、メシュカおばさんから大事なことを学べる絵本です。



この通信は、松本市公式ホームページでも見ることができます

**Facebook もやっています！**

松本市女性センター



＜編集・発行＞

松本市 人権共生課（松本市女性センター）

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 / FAX 0263-37-1153